

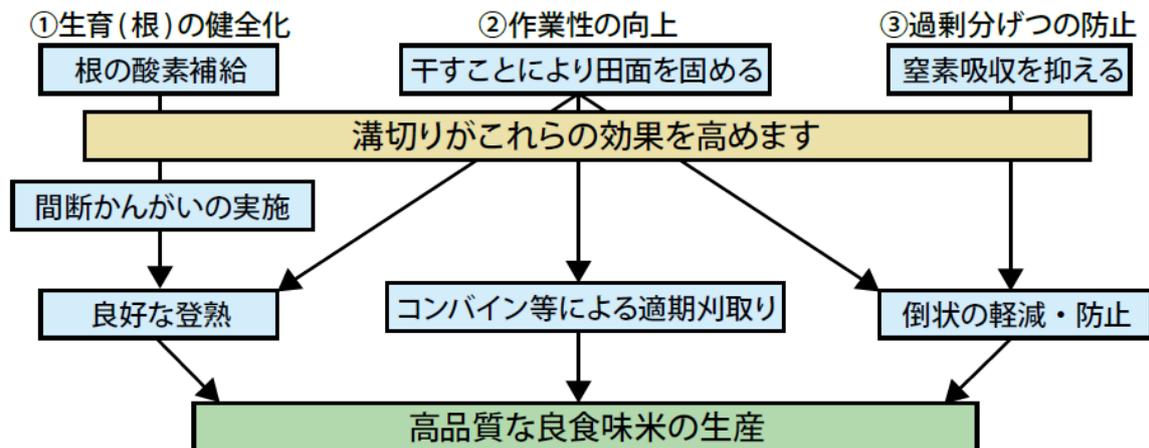
いわて平泉米だより

今月は「中干し」の効果について説明します！

本年の田植え作業については、水不足の心配もありましたが、無事終了し、稲の生育も順調に進んでおります。今後は、水管理が重要となりますので、晴天日には浅水にし寒い日には深水管理を基本として水管理を行ってください。また、6月下旬には、中干し作業を実施し、良食味米の生産に努めていきましょう。

中干し・溝切り 6月25日～7月10日頃までの期間

中干しの効果には大きく分けると3つあります。



中干しを強く行う水田

- ・ 水持ちのよい水田
- ・ 粘土質や有機物の多い水田
- ・ 地力が高く施肥量の多い水田
- ・ 稲が過繁茂で葉色の濃い水田

中干ししなくてもよい水田

- ・ 漏水田
- ・ 冷水で生育が遅れている水田
- ・ ため池地帯など用水が不安定な水田

- ・ 小さい分けつ（2葉以上ついている茎）を含み1株当たり25本程度になったら中干しをしましょう。
- ・ 特に、基盤整備ほ場では、溝切りも併せて実施し、秋作業に備えましょう。
- ・ 中干し後はいっきに深水にすると根が弱まるので、走り水を行うなど間断かん水を繰り返してから通常の水管理にしましょう。